



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月31日

上場会社名 兼松サステック株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7961 URL <http://www.ksustech.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 小泉 浩一
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 相葉 雅士 TEL 03-6631-6600
 四半期報告書提出予定日 2022年2月1日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,055	14.7	791	37.9	868	40.0	596	49.8
2021年3月期第3四半期	8,768	△11.7	573	△22.1	620	△23.7	398	△27.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 596百万円 (52.1%) 2021年3月期第3四半期 392百万円 (△27.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	143.94	—
2021年3月期第3四半期	96.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	11,922	8,623	72.3
2021年3月期	10,938	8,259	75.5

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 8,623百万円 2021年3月期 8,259百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2022年3月期	—	25.00	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,000	19.6	1,100	55.3	1,170	47.8	770	48.9	185.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 7 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	4,149,200株	2021年3月期	4,149,200株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	4,637株	2021年3月期	4,566株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	4,144,595株	2021年3月期3Q	4,144,646株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(会計方針の変更)	7
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策としてのワクチン接種の促進など感染拡大防止策の効果もあり、緊急事態宣言等がすべて解除された10月以降は持ち直しの動きが見られました。一方で、一部で部品部材調達が難しい状況が続いていることに加え、11月にはオミクロン株などの新たな変異ウイルスが確認されるなど、依然として不透明な状況にあります。

このような環境のもとで当社グループは、お客様と従業員の安全と健康の確保を最優先としつつ、お客様のニーズに応えるべく営業活動を継続してまいりました。当第3四半期連結累計期間における売上高は100億5千5百万円（前年同期比14.7%増）、営業利益は7億9千1百万円（前年同期比37.9%増）、経常利益は8億6千8百万円（前年同期比40.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億9千6百万円（前年同期比49.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

ジオテック（地盤改良）事業

一般の地盤調査や地盤改良工事の販売、当社独自の高耐久性を有した木製パイルを施工材料とする「環境パイル工法」の販売および自社開発の地盤改良関連技術や関連する部材等の販売はいずれも増加し、また営業強化しております非住宅分野における販売も増加いたしました。売上高は47億8千万円（前年同期比20.3%増）、営業利益は3億2千2百万円（前年同期比73.8%増）となりました。

木材加工事業

第2四半期連結累計期間に続き「ウッドショック」の影響による木製品の供給不足による需要増を背景に、保存処理木材の生産および販売数量は前年同期比で増加いたしました。また木材利用促進の社会的要請を反映し非住宅分野において保存処理をした高付加価値製品の引き合いも増加しております。売上高は28億7百万円（前年同期比15.8%増）、営業利益は3億5千9百万円（前年同期比125.9%増）となりました。

セキュリティ機器事業

新型コロナウイルス感染症の営業活動への影響も徐々に改善し、売上高は20億7千9百万円（前年同期比4.4%増）と前年を上回りました。一方で人員および設備の先行投資の影響もあり、営業利益は3千4百万円（前年同期比78.8%減）にとどまりました。

石油製品事業

ガソリン消費の減少傾向が続く中、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛、企業活動の抑制から燃料油の販売数量は前年同期比減少しました。一方で燃料油の配達業務などのサービスに努めた結果、売上高は3億8千8百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は6千5百万円（前年同期比10.9%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は119億2千2百万円であり、前連結会計年度末と比較して9億8千3百万円増加いたしました。

流動資産は、受取手形及び売掛金や商品及び製品の増加等により11億2千4百万円増加いたしました。固定資産は、機械装置及び運搬具や繰延税金資産等の減少により1億4千万円減少いたしました。

流動負債は、支払手形及び買掛金の増加、契約負債の計上等により9億3千4百万円増加いたしました。固定負債は、商品保証引当金の取崩し等により3億1千4百万円減少いたしました。

純資産は、四半期純利益5億9千6百万円の計上等により前連結会計年度末から3億6千3百万円増加し、86億2千3百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年4月28日発表の予想数値からは変更はありません。

また、新型コロナウイルス感染症拡大による影響につきましては、主に以下の会計上の見積りで使用する仮定に与える影響を評価した結果、当第3四半期連結会計期間末において変更を必要としたものはありません。

- ・ 棚卸資産の評価
- ・ 固定資産の減損
- ・ 繰延税金資産の回収可能性

なお、上記業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定したものであり、実際の業績は同感染症の収束時期等、様々な要因により変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,195	3,627
受取手形及び売掛金	2,032	2,363
商品及び製品	769	1,033
原材料	411	505
その他	134	137
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	6,542	7,667
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	704	692
機械装置及び運搬具（純額）	480	431
土地	999	999
リース資産（純額）	15	11
その他（純額）	48	52
有形固定資産合計	2,249	2,188
無形固定資産		
ソフトウェア	150	224
その他	73	5
無形固定資産合計	224	229
投資その他の資産		
投資有価証券	92	93
繰延税金資産	225	167
投資不動産	1,442	1,436
その他	164	142
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	1,922	1,837
固定資産合計	4,396	4,255
資産合計	10,938	11,922

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,565	2,158
リース債務	5	4
未払法人税等	94	108
契約負債	—	307
賞与引当金	217	116
役員賞与引当金	14	—
その他	210	345
流動負債合計	2,107	3,042
固定負債		
リース債務	12	8
退職給付に係る負債	152	142
商品保証引当金	303	—
資産除去債務	20	20
その他	82	84
固定負債合計	571	256
負債合計	2,678	3,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,325	3,325
資本剰余金	1,146	1,146
利益剰余金	3,792	4,157
自己株式	△7	△7
株主資本合計	8,257	8,621
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	2
繰延ヘッジ損益	0	0
その他の包括利益累計額合計	2	2
純資産合計	8,259	8,623
負債純資産合計	10,938	11,922

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	8,768	10,055
売上原価	6,239	7,104
売上総利益	2,529	2,950
販売費及び一般管理費	1,955	2,159
営業利益	573	791
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
持分法による投資利益	2	0
受取賃貸料	65	64
受取保険金	1	19
その他	8	13
営業外収益合計	80	99
営業外費用		
支払利息	0	—
為替差損	14	3
賃貸費用	19	18
その他	0	1
営業外費用合計	34	23
経常利益	620	868
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産除却損	6	0
特別損失合計	6	0
税金等調整前四半期純利益	615	868
法人税、住民税及び事業税	127	211
法人税等調整額	89	60
法人税等合計	217	272
四半期純利益	398	596
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	398	596

（四半期連結包括利益計算書）
（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）
四半期純利益	398	596
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△0
繰延ヘッジ損益	△6	△0
その他の包括利益合計	△6	△0
四半期包括利益	392	596
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	392	596
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項
（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、商品及び製品等の販売について、従来は出荷時に収益を認識しておりましたが、着荷時に収益を認識する方法に変更しております。また、代理人として行われる取引については、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、純額で収益を認識する方法に変更しております。さらに、保証に対する売上については、販売した機器の将来見込まれる保証費用を「商品保証引当金」として計上しておりましたが、当社が保証すべき費用は顧客に対する履行義務と認識して、「契約負債」を計上し、契約期間に渡って売上高として計上しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は278百万円減少し、売上原価は324百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ45百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は25百万円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより、時価のあるその他有価証券の四半期連結貸借対照表価額の算定方法について、四半期連結決算日の1カ月前の市場価格等に基づく時価法から四半期連結決算日の市場価格に基づく時価法に変更しております。

なお、この変更による四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジオテック	木材加工	セキュリティ 機器	石油製品	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	3,974	2,425	1,992	376	8,768	—	8,768
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	732	—	23	756	△756	—
計	3,974	3,157	1,992	400	9,524	△756	8,768
セグメント利益	185	159	163	58	567	6	573

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去6百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比べ、研究開発施設の建設により、「ジオテック」のセグメント資産の金額は272百万円、「木材加工」のセグメント資産の金額は645百万円増加しております。また、茨城工場の新設により、「木材加工」のセグメント資産の金額は305百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日至2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ジオテック	木材加工	セキュリティ 機器	石油製品	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	4,780	2,807	2,079	388	10,055	—	10,055
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	815	—	31	847	△847	—
計	4,780	3,622	2,079	419	10,902	△847	10,055
セグメント利益	322	359	34	65	782	9	791

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去9百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。